

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年11月6日(土)

### 《富は、分かち合うためにある》

今日の福音(ルカ 16・9 15)で、皆様が誤解される可能性のあるところを申し上げます。「不正にまみれた富で友達を作りなさい。」と書いてありますが、どういう意味でしょうか。不正にお金をもうけてもよい、ということでしょうか。なぜイエス様はこのようにおっしゃったのか、納得できないではありませんか。「不正にまみれた富で友達を作りなさい。」という言葉が皆様はどのように理解していますか。

不正にお金をもうけるのはいけないことです。しかし、私たちはどうしても不正と関わりを持ってしまいます。「正しく、正直にお金をもうけました。」と言える人はこの世の中に少ししかいません。たとえば、「私は正直に働いて、正しくお金を儲けました。」と言う人がいたとします。しかし、「食べ物なくて、つらい生活をしている人が近くにいませんか。その人のために何かしましたか?」と聞いた時、「何もしてませんでした。」という答えであれば、その人の富は不正にまみれているのと同じなのです。これは私の考えではなくて、イエス様の考えです。このように考えると、この世の中にいる限り、私たちはどうしても償いをしなければならないのです。

今日の福音でイエス様がおっしゃったのは、「持っているものを施し、分かち合うことが神様に仕えることになり、そのようにしないことが富に仕えることになる。富に仕えることになったら、あなた方は滅びる。」ということです。「神と富とに仕えることはできない。」とおっしゃっていますね。皆様が親しみ、愛するのは神様と富とどちらでしょうか。もちろん、イエス様、神様ですよね。富(物)と神様と、どちらかを選ぶとしたら、当然神様を選びますよね。それでも、私たちの生活の9割以上は富に縛られているのではないのでしょうか。皆様が心を痛める内容の9割は、富と関係があるのではないかと思います。だから、もし許されて皆様の手に富があるのならば、それを拒むのではなくて、良いことのために使わなければなりません。この福音は、そういうメッセージだと思います。私たちはどうしても物に縛られます。物は、分かち合うためにあること、物のために神様を殺す行為をしてはいけないこと、物のために永遠の命を失うような間違えた道を歩んではいけないことをいつも意識しなければならないのです。

面白い話をしましょう。日曜日のミサには、若者からお年寄りまでいろいろな方がいらっしゃいますね。そこで「今、お金のために悩んでいる人はいますか。」と聞けば、たぶん手をあげる人の9割は若者でしょう。お年寄りは、天国の門が見えるから、執着から解放されやすいのです。では、なぜ若者はお金に困っているのでしょうか。それは、自分にはまだ生きる時間がたくさん残っていると思うからです。いろいろ考えて、富を集めようとしています。しかしそれは賢明ではなくて、ある意味では愚かな、馬鹿な生き方をしているのです。

皆様、よく考えてください。神様、イエス様は、はっきりおっしゃいましたね。あなたが願えば、必ず空腹を満たしてあげよう、と。これはイエス様の言葉です。「空を飛ぶ鳥は、種も蒔かず借り入れもしないが、神様は鳥を養ってくださる。野の花は、働きも紡ぎもしないが、栄華を極めたソロモン以上に気飾らせてくださる。鳥や花以上に尊い、大事な存在であるあなた方が、飢え死にすることはない。」と、はっきりおっしゃいました。では、アフリカの子どもたちは、何の罪であのように飢え死にしまうのでしょうか。それも100パーセント私たちの罪です。少なくとも、お金を持っている者の罪です。そういうことを考えてみると、富をどのようにもうけたかも大事なことです。儲けたお金をどのように使うかは、もっと大事です。それを意識すべきではないかと思います。

ありがとうございました。